

酒々井町

郷土研究会会報

第115号

平成17年1月1日

酒々井町郷土研究会

広報部



乙酉 正月

「そば猪口の魅力」

酒々井町教育長

津田 藤人

穏やかな新春、今年は何か佳
 事がありそうな気が致します。会
 員の皆様が益々ご壮健で幸せな
 年となりませう様お祈り致します。
 おせち料理を彩りよく盛る器に
 因み、そばつゆを入れる「そば猪
 口」について述べさせて頂きます。
 いつの間にか増えたそば猪口、何
 個あるだろうか。旅行やドライブの
 折に集めて数十年、よくも飽きず
 集めたものだ。我ながら感心す
 そのきつかけは中学生の頃、暮れに
 なると一家で大掃除をし、縁の下の
 ごみや古い物をリヤカーに積みゴ
 ミ捨て場に運んだ。三十五歳の頃、
 何気なく骨董市を覗いたら、何と当

時捨てた徳利が、時代を経た物であり
 高い値に興味を抱く。その場で赤絵の
 そば猪口を手に取り見ていたら、店主
 に一言「江戸時代のものです。そば猪
 口は骨董の眼を肥やす基本で数点蒐
 集すると楽しみがふえます。」といわ
 れて衝動買いをする。以来今日まで出
 会いがあり気に入ったものは手元に
 置くようにしている。確かに魅力があ
 り伊万里系の磁器は江戸時代の初期、
 中期、後期と見分けがつくようにな
 り、見方を会得した途端、古い鉄、竹、
 布を「美」として感じる様になり今で
 は分野が広がり、購入もさることなが
 ら美術館や写真での鑑賞が中心であ
 る。そこで、骨董好きの原点となった
 そば猪口の魅力について我流で述べ
 たい。
 そばを入れても「つゆ」がこぼれな
 いように形は台形、上部と底部の直径
 差が大きく、高台の無い安定感のある
 べた底で、箸づかいも良く向付けとし
 ても使える。当時は高価であるが故に
 多用途性も考えたことだろう。側面に
 は日常生活や縁起をかついだ楽しい
 絵が多く、当時の資料としての価値も
 ある。特に染付けのそば猪口は、絵と
 空白の絶妙さ、毎日描き続けたであ
 る巧みな筆致による冴えには驚く。

この江戸時代の絵付けの例をあげ
 ると、萩の枝の上に広げた本（読書
 の秋）葡萄の棚に上向きな実（下
 る事を嫌う）山の中腹に一本の線（山
 に震がかる）秋草文、松竹梅、筍
 掘りの姿等、どのそば猪口でも各々
 の時代を感じ取れ、素朴な民芸とし
 ての美と安定感や使い勝手の良さか
 らくる機能美も感ぜられ、正に鎖国
 の中で育った江戸の心の凝縮であり
 今日まで時代間隔を取り入れながら
 ほぼ同様な形で使われている。
 蒐集し鑑賞するのみ、鑑賞しながら
 実用に供する、楽しみ方は種々あ
 るが伊万里発祥の磁器のそば猪口は
 無名の陶工たちが身の回りの自然を
 描いた図柄であり、現代と江戸との
 共通項もたくさん見出され、その中
 に身を静かにおくことができる。
 休日も無いに等しい職務に就き乗
 りきれたのは家族の支援もさること
 ながら、それ以上に癒されたことは
 深夜近所に迷惑をかけないよう静か
 に風呂に入り、窓辺にお気に入り
 そば猪口を二、三個並べて湯船にし
 ばらく浸ると一日の疲れもとんでし
 まい翌日は無の心境でスタートでき
 た。忘れられない人生の「こまだが、
 素朴な民芸の美しさをより見極めて
 日本の心を後世に伝えたい今日この
 頃である。



「年頭に寄せて」

郷土研究会会長 青木 朝次



明けましておめでとうございます
皆様方もご健勝にて清々しい新年
をお迎えになられた事と存じます。
一昨年は短い夏、昨年は暑い夏、
そして打続く十指に余る台風の
数々、新潟県中越の大地震と多くの
人達が家を失い避難生活を送って
います。海外ではイラクの武装勢との
戦い、肉弾テロの暗躍と血なまぐさ
い話題ばかりですが唯一つアテネの
オリンピックで若者が金銀銅のメダ
ルを数多く獲得する快挙に心癒され
るおもいでした。
今年も会員の皆様方の多大な協
力をいただき、運営の刷新を図り尚
一層の繁栄をねがうつもりでござい
ます。
皆様のご健康とご多幸をお祈り申
し上げます。

総会案内

第二十九回定期総会が平成十七年
一月三十日(日)午後一時三十分よ
り中央公民館研修室に於いて開催さ
れます。会員の皆様におかれまして
は何かとお忙しいことかと存じます
がご出席くださいますようお願い申
し上げます。



「田無不動尊」を訪ねて

養輪 光正

京成J・R西武を乗り継いで
名勝探訪にかけた。都市化の発展
著しい田無駅から五、六分で田無不
動尊に到着、市街地の中心で街路沿
いに位置しており、寺名は田無山総
持寺(真言宗智山派)と言う。
門前の花壇には早くも薄黄色の彼
岸花が真っ盛りで、仁王門を潜り境
内に入ると総ケヤキ造りの本堂や、
根回り数メートルもあるイトヒバ
(市指定保存樹木)に目を瞠る。付
属する建築物にもふんだんにケヤキ
材が使われている。寺の周囲を見渡
せば広大な敷地である。間口、奥行

とも数十メートルもあり堅固な石塀
をめぐらせ当時の権勢が今日迄至つ
ている。寺の裏側はケヤキの威容な
繁茂を見るに、別名「ケヤキ寺」と
呼ばれる所為と納得した。
次に同寺と道路を隔てて在る田無
神社に詣でる。ここでの見所は、何
と云っても名工の手による本殿の彫
り物である。本殿は拝殿の奥に鎮座
し全体が重鉄筋コンクリートの覆
殿の中にあるため外からの拝観は出
来なかった。
新青梅街道から所沢街道を二十分
程進むと武蔵野の面影が随所に見ら
れる「石幢六角地藏」にでる。扁平
な六角形で各面には、地藏像が一体
ずつ浮き彫りされている。当時この
付近は街道が六方にわかれ、江戸、
小川、所沢、前沢、保谷の道するべ
の文字が刻まれて旅人の道標になっ
ていた。以上十二時で本日の予定を
終了。
暑さは厳しくとも良い汗を流すこ
とができた。十八名のうち、帰路は
半数の人達が別途に探訪を続ける
組、また途中下車で面白い物に廻る人
とそれぞれ有効に使えた探訪であつ
た。

「タコノアシ」

T・O



「タコノアシ」については以前会報で紹介されましたが、今回の野草観察会はこの「タコノアシ」観察が主な目的でした。

十年前には日当たりの良い湿地で見られなかった植物ですが、最近では減多に地味な花が咲き、秋に朝晩冷え込むと赤く色づくそれは美しい植物で形が蛸の吸盤に似ているのでその名がついているそうです。これが酒々井町内にあり胸をときめかして十月十日参加しましたが、今年は夏の高温が秋まで続き、赤くなる頃は雨ばかりのためか、一帯に茶色となつてしまい誠に残念。

参加した十七名は下台方面で「ヤマコウバシ」「アキカラマツ」「ヘクソカズラ」「キツネノカミソリ」とか紫のきれいな「キツネノマゴ」など採集し名前の判らない草は亀井先生に聞いてメモしたり、皆さん楽しくアツという間の半日でした。

公民館に帰って、有志の役員が前日から摘み草をして用意してください

つたヨモギの和え物、タンポポのマヨネーズ和え、ツクサの天ぷらなど盛り沢山で一同感激し、贅沢な野草料理を味わい楽しい一日を過ごしました。

来年は一面赤い「タコノアシ」が見られることを楽しみにしております。



「粟又の滝ってどんな滝」

伊藤 玲子

粟又の滝はなかなかの景観です。と、以前友人が言っていました。が、紅葉の頃が特にすばらしいと今度行ってみて初めて知りました。千葉県一の紅葉の名所というのはいままで聞いたことが無かった私は、日頃から千葉には紅葉する木々が少ないせいだと思っていたのです。

郷土研究会で今度養老溪谷へ行くことになり注意してテレビを見てみると、養老溪谷の紅葉の話題を盛んに流しています。私だけが知らなかったようです。

天候に恵まれた十一月二十四日、参加者三十四名は、町バスで公民館を出発、八街、東金から一路大喜城を右手に見ながら、先ずはイワツツジで名高い水月寺へと向かいました。車中での青木会長のお話はなかなか面白く、今は家や工場が立ち並んでいる茂原郊外も数年前には何もない田畑ばかりだったと言うのにも感慨を覚えました。

十時三十分には水月寺に到着。山門には名高いイワツツジがごろごろと円く刈り込まれて並んでおり、花の咲く季節にまた来て見たくなりしました。石段上の綺麗に手入れされた庭の脇道を通って、俗に幻の滝と呼ばれる小沢又の滝へ。遊歩道の脇の農家では、庭先にユズや見事に真赤なトウガラシなどを並べて売っています。皆さんは滝壺の方へ降りて行かれましたが、私は茶店の展望台から二手に分かれて落ちる滝を眺めるだけにしました。



また、バスに乗って粟又の滝近くまで行き、滝見苑で昼食をとりその後、滝の見物という段取りです。

栗又の滝付近の道は狭く、滝壺へ降りる石段も、下りる人、上る人が狭い道ですれ違いする光景に恐怖を感じて、私は河原まで下りず眺めるだけで引き返しました。

紅葉は少々早かったようで、木々の葉っぱはまだ緑が残っていました。今年夏が長かったせいでしょう。まだ知らなかった千葉県の名勝、名所を楽しく見学できた良い一日でした。ありがとうございました。

「泉岳寺方面を探訪して」

横山 余市

師走入りした、三、四日の気候は小春日と言われる温暖さが続き、十二月七日の泉岳寺方面探訪を毎日夜の天気予報を見ながら安堵の思いで待つもどかしさの中に一日一日と経過し当日絶好の探索日和に恵まれ、八時三十五分京成酒々井駅に赴けば改札口周辺には早々と参加の会員が集合され、一群の賑やかな談笑の声が耳につく。やがて総勢二十七名が一斉に八時五十五分発羽田行きに乗車すべく階段を降りホームへと歩を運ぶ。その姿は正に希望と夢の実現の旅の出発に似た感じが致しました。車外の風景に眼を馳せながら約一時間十五分、泉岳寺駅に到着、階段を一気に上り地上の大気を吸い一息つきこれからの探訪に胸を躍らす。約十分で高輪大木戸跡に到着、建立の説明を聴く。次に待望の泉岳寺へ、車道の頻繁な交通を横目に見て一路歩をはやめる。

本日の目玉泉岳寺の門を潜り四十七義士の眠る墓地に到

る。大石良雄と四十七義士の墓前に線香を手向け次いで首洗いの井戸などを見て、次の伊皿子貝塚(三田台公園)にと足を運ぶ途中全員道端のスーパ―に立ち寄りそれぞれ昼食弁当を買って求め、公園で約四十分の昼食と休憩時間を終え、「大石良雄切腹地」と本日の難所洞坂の急坂道を経て、最後の見学地「東禅寺」に立ち寄る。拝観後一路品川駅に向かう。駅前自由解散家路に着く。本日の案内役浜口様その他役員の皆様方にはいろいろお世話になり厚くお礼申しあげます。

養老溪谷方面収支報告

収入 1500×35=52,500
支出 昼食代 47,775 諸雑費 3,070
52,500-47,775-3,070 =1,655
残金 1,655円

秋の野草観察収支報告

収入 100×17=1,700円
支出 材料費等 1,028円
残 672円野草会計へ

郷土研日誌

| 月日 | 内容 | 参加者 |
|-------|----------|-----|
| 9・24 | 会報編集 | 5 |
| 9・24 | 道標資料集打合せ | 8 |
| 9・25 | 会報印刷 | 5 |
| 9・29 | 会報発送 | 15 |
| 10・12 | 野草下見 | 6 |
| 10・14 | 野草観察会 | 18 |
| 10・19 | 古文書を読む会 | 11 |
| 11・5 | 佐倉道を歩く | 11 |
| 11・9 | 名勝探訪下見 | 4 |
| 11・12 | 研修部会 | 6 |
| 11・16 | 古文書を読む会 | 11 |
| 11・24 | 養老溪谷 | 35 |
| 11・25 | 道標資料集校正 | 7 |
| 11・27 | 運営委員会 | 21 |
| 11・27 | 会報編集 | 5 |
| 12・4 | 史談会 | 13 |
| 12・7 | 泉岳寺方面 | 27 |
| 12・10 | 会報編集 | 5 |
| 12・16 | 会報校正 | 5 |
| 12・21 | 会報校正 | 5 |

見学

案内

名勝探訪



一月二十三日(日)

雨天代替二月六日(日)

今年には瑞泉寺方面で梅・水仙の香りを楽しみながら鎌倉宮・源頼朝の墓などを散策し鶴岡八幡宮へ、ここで一年の健康を祈りつつ自由昼食となります。

初詣(鎌倉シリーズ)も今回で十年目となりますので、一区切りをつけたいと思います。大勢の参加をお待ちしております。帰りには小町通りなどをみながら家路に着きましょう。

瑞泉寺―紅葉が谷の奥にあり、鎌倉を代表する花の寺。一三二七年(嘉暦二)禅僧夢窓国師が庵を結び、開いたのが始まり。足利氏四代の菩提所にした。現在の建物は、大正時代以降に再建された物である。

鎌倉宮―大塔宮護良親王を祭神として、一八六九年(明治二)明治天皇が創建した神社。護良親王は父後醍醐天皇と共に鎌倉幕府打倒に貢

献。しかし足利尊氏の策謀に捕らえられて、この地にある土牢に九ヶ月閉じ込められ殺された。本殿の裏手にその土牢が残っている。

注 鎌倉では谷は「谷戸」または「谷」と呼ぶ。

日帰り見学会

三月四日(金)
雨天決行

千倉方面
一足早い春をピンク・黄色・白などの花に求めて、千倉に行きましょう。

不動尊巡りもだんだんと遠い所になってきました。今回は第三十三番「高塚不動尊」で千倉にあります。山頂からの眺めは太平洋を一望することができ、目の保養になると同時に、青々とした大海原のような広々とした心になってきましょう。

「不動明王」とは

不動明王は「お不動さま」と一般に親しまれる仏さまのお姿です。不動尊や無動尊なども称され、一心に祈る人々の願いを必ず叶えてくださる強い仏さまです。

お不動様の荒々しいお姿は衆生を必ず救うという慈悲を表し、背後に轟々と燃え盛る炎は、お不動様ご自身が一切衆生の罪障煩惱を焼き尽くす火生三昧におられることをあらわしています。右手の利剣は「知恵の剣」であると同時に、如何なる災いをも薙ぎ払う「降魔の剣」です。

こうした古来の意味のほかにも、各地に祀られているお不動様の尊像にはそれぞれ独特の祈りや願いが籠められていて、異なる特徴や意味、役割があります。

あとがき



昨年は和歌山、新潟中越地震、大洪水。十二月になって酒々井でも強風など本場に災難の多い年であったと思います。

新年を迎え、郷土研究会も新しい気持ちでいろいろな行事計画を立てました。タンポポの花が咲いたとか、水戸では梅の花が咲いたとかのニュースもあり、春は早そうです。

どうぞ皆様も新しいお気持ちで御参加くださいますようお願いいたします。

郷土研行事案内

平成17年1~3月

| | 1 月 | 2 月 | 3 月 |
|-------------|--|--|--|
| 史談会 | 休 講 | 5日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑮ 講師：高橋健一先生 | 5日(土) 13:30 会議室 「古今佐倉真佐子」⑯ 講師：高橋健一先生 |
| 古文書を 読む会 | 休 講 | 15日(火) 13:30~15:30 プリミエール酒々井 「島田家文書」⑯ 講師：青木朝次会長 | 休 講 |
| 名勝探訪 | <p>[鎌倉方面] 1月23日(日) 雨天代替2月6日(日)</p> <p>集合時刻・場所 7:30 JR酒々井駅 (ま)</p> <p>参加費 100円 ホリデーバス 2300円</p> <p>JR酒々井駅—鎌倉駅…バス…瑞泉寺…鎌倉宮…荏柄天神…源頼朝墓…鶴岡八幡宮 (解散・自由昼食)</p> <p>コース変更する場合があります 問合せ 寺本 () まで</p> | | |
| 野草観察会 | <p>「七草粥を食べる会」 2月4日(金) 会場 中央公民館</p> <p>受付 11:00 会食 11:30</p> <p>会費 700円</p> <p>参加受付 参加希望者は最寄の運営委員にお申込み下さい 総会当日(1月30日)にも受け付けます 当日お手伝いをしてくださる方は9:00頃調理室において下さい 問合せ 犬島 () まで</p> | | |
| 日帰り見学会 | <p>「千倉方面」 3月4日(金) 雨天決行</p> <p>集合時刻・場所 8:30 中央公民館前</p> <p>参加費 2,000円(昼食付き) 定員 33名 町バス使用</p> <p>申込み受付 総会当日(1月30日) 13:00</p> <p>公民館—茂原—大多喜—千倉—高塚不動尊—公民館 (場合により一部コース変更あり) 16:30頃帰着予定</p> <p>キャンセル：実施日3日前まで</p> <p>皆様のご参加をお待ちしております 問合せ 寺本 () まで</p> | | |
| 第29回 総会 | <p>1月30日(日) 中央公民館2階研修室</p> <p>受付 13:00 開会13:30 年会費1000円をご用意ください</p> <p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成16年度事業報告および決算の承認について ● 平成17年度事業計画案および予算案について ● 役員改選について ● その他 | | |